

安倍晋三元首相が銃撃され死去した事件は、大人だけでなく、子どもの心にもショックを与えている。気持ちをどう受け止め、どんな言葉をかけ、説明すればいいか。子どもの

心理に詳しい名古屋大大学院准教授の野村あすかさん(35)と、育児雑誌の編集者で小学校の教員を長年務め、今も教壇に立つ岡崎勝さん(69)に聞いた。(長田真由美)

ニュース × 子育て

安倍元首相銃撃 子どもにどう伝える

銃声が響き、加害者を引き倒す映像が繰り返し流れた。こつしたニュースに触れた子どもの反応はさまざま。言葉で表現するのが難しく、体に表れることがある。寝付きが悪くなったり食欲がなくなったり。恐怖や不安を感じることもあれば、なんでこんな事件が起

野村あすかさん

名古屋大大学院准教授



きたのかと怒りが湧くことも。逆に何事もやる気が出ないなど、いつもと違う様子がみられることがある。大人も同じで、心がざわ

ざわする。これは「異常事態における正常な反応」で、心理学の世界では普通のこと。正常に外の世界に反応しているといえる。ただ、子どもの場合、生々しすぎるニュースは不安定にさせるので、距離を取り、見ないことも大事になる。子どもへの声かけは、発

達の段階によって異なる。小学校低学年なら、言葉で説明しても理解が追いつかないことがある。「家や学校は安全だよ」「大人がちゃんと守ってあげるよ」など、シンプルに伝える。不安そうなお子には一緒に家の鍵をかけるなど、見守っているという態度を見せるこ

とが大事。中学生以上なら、いろんな疑問が湧く時期で、自分の心の動きや事件について質問されたら、分かる言葉で話してほしい。こつした反応は、ほとんどの子が、時間の経過とともに収まる。ただ、最近身近な人の死を経験したり、元々心の不調があったりした子は影響を受けやすい。いつもと違った反応が長く続く場合は、スクールカウンセラーや医療機関に相談してほしい。

「守るよ」態度で示す